

## 「生者のための墓場」 モスル：イスラム国への勝利後5年 を経て

【訳者 Greatchain】本稿は2019年6月11日の私のものだが、埋もれた状態にあったのをどなたが気づかせてくださった。現在のウクライナも同じ「生者の墓場」になろうとしている。そしてその墓場はやがてアメリカ本土にも、わが日本にも上陸しようとしている。】

イラクのモスルという都市の惨状については、何度もここで翻訳紹介している。私の訳したものの中でも、最も生々しく恐ろしい手記がそこに含まれており、今でも悪夢のように覚えている。これは中東におけるアメリカの残虐行為でも、最も特筆すべきものの一つであろう。報道では、米の率いる連合軍が、ISIS テロ集団がモスルを占領していたのを、ついに奪還した、万歳、という調子だったのを覚えておられるだろう。それはそうでなかった。もし「万歳」なら、そして連合軍が、悪の手から人民を救ったのなら、なぜイラク市民のための復興どころか、瓦礫の片づけさえしないで、5年間も放置するのか？ 過去の記事を併せて読んでいただきたい。

「モスルの血の池」 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170729.pdf>

「モスルの大虐殺」 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170723.pdf>

「モスル作戦」 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170329.pdf>

「ISIS 爆撃に見せかけて」 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160507.pdf>

これは米連合軍の行動の特別の例ではない。シリアでも、イエメンでも基本的に同じである。



2014年6月10日、モスルのイラク軍とISISとの衝突において、焼けた自動車の傍らに立つ子供たち／ロイター

モスルは5年前にイスラム国の手に落ちていた。アメリカの主導する連合軍は、やっと2017年にこのイラクの都市を解放したが、それをほとんど廃墟の状態に放置した。ISISのカリフ国がなくなり、地方の住民は回復しつつあるのか？ どのようにして？

## ISのモスル占領

2014年6月初めに、ファルージャとラマディを制圧してのち、IS (ISISとしても知られる)の戦士たちは、イラク軍が1万人しかいないと言われるモスルに目を向けた。この軍隊は武器弾薬が足りないという危険な状態にあり、彼らの戦車はアンバル地域に移動していた。

<https://twitter.com/AliBaroodi/status/1137937286375583744/photo/1>

6月4日、ISは、集めたトラックに乗ってこの都市に乗り込み、数日のうちに彼らのイラク人の反対者を制圧し、政府の建物と空港を支配し、その間、約50万人の市民が逃亡した。クルディスタン人が、ペシュメルガ戦闘員を援軍に送ろうかと申し出たが、イラクは断り、モスルは陥落した。

このテロリスト集団が、6月12日までに、180万人口のこの都市を完全に制圧し、有名なアルヌーリの大モスクのイマームを、協力しなかったので殺した。数週後に、ISのリーダー、アブー・バクル・アルバガンダディが珍しくこのモスクに現れ、「カリフ国」を宣言した。グループは、この有名な歴史建造物を破壊し、これは地方文化にとって大きな打撃となった。



イラク、モスルのアル  
ヌーリの大モスク、  
2018年12月

## IS の陰で生きる

モスルの通常の生活は、テロリストの占領によって引っ掻き回された。IS は、ヘスバ道徳警察によって強制される、極端なシャリア法を都市の住民に課したが、これはむち打ちや、石打ちや、手の切断を罰則として定めるものだった。市民たちは、首切りの刑や、ゲイの人々が兵士たちによって Chadirji の建物から突き落とされるのを目撃した。

<https://www.rt.com/news/382514-mosul-civilians-airstrikes-nightmare/>

（「我々の家は我々の上に崩れてきた」：避難民たちはモスルの悪夢を思い出し、神経症に苦しんでいる）

多くの住民は絶えまない恐怖の中に生きている——占領軍との遭遇が、どんなに単純なものであっても、致命的なものになり得るからである。

「私たちは ISIS とのどんな接触でも避け、彼らが近くにいるときには家の中にいました」と、あるモスルからの亡命者は RT に語った。「彼らはどんなことでも好きなことをやり、〈今日は〉と言っただけでも殺しかねないのです。」

<https://www.rt.com/news/379541-isis-mosul-refugees-exclusive/>

本とモスクは破壊された。学校への出席はほとんどなくなり、すべてのカリキュラムは、ISIS のイデオロギーを教えるように、書き換えられた。テロ集団は、何でも自分の欲しいものを要求した、と住民は言っている。

「私たちの家は ISIS に取られ、すべてが取られるのです。今、我々の隣人でも ISIS を養っています」と、教会の職員 Sarmad Ozan は、都市を脱走した後、RT に語った。

<https://www.rt.com/uk/359599-refugees-welcome-iraq-christian/>

## 壊滅的な連合の空爆

モスルを奪回する攻撃は 2016 年 12 月に、イラク軍と、彼らを支援する米主導の連合軍によって始まった。それは都市を激しく攻撃した。特別作戦群が 11 月に、東側からモスルに入った。激しい戦闘が続き、連合軍——英、カナダ、オーストラリア、ドイツ、ヨルダンを含む——は無慈悲にこの都市を爆撃した。

イラクがモスルの解放を 2017 年 7 月に宣言するまでに、9 か月の戦闘と爆撃を要した。しかし、この作戦は、破片を拾うしかない住民たちの、莫大な犠牲において行われた。



人々は、連合軍が IS 戦士の陣地を攻撃し始めてから、パニックに陥った。写真は、2016 年 11 月 17 日、イラクのモスル、タヒリール界限／ロイター

連合軍は基本的に、モスルを救出するために破壊した——が、この都市の 90 パーセントは、空爆と戦闘によって破壊され、ほぼ 800 万トンの瓦礫が後に残された。死亡者数は呆然とするものだ。モスルの土地で行われたある調査によると、アメリカの支援する連合軍による、



9 か月に及ぶ戦闘期間に殺された人々は、IS の占領していた 3 年間全体よりも多いことがわかった。

## 5 年間の犠牲を総計すれば

今日、モスルは荒れ果てた廃墟のまま残っている。IS 占領軍と、彼らからその領地を取り返そうとする、9 か月間の戦闘から受けた傷跡は、そのままだ。瓦礫の山が、かつて建物があつた場所に放置され、下水が、荒廃した通りのいくつかを流れている。

[https://twitter.com/akram\\_a\\_a/status/1094504155413139456/photo/1](https://twitter.com/akram_a_a/status/1094504155413139456/photo/1)

勇気を出してモスルへ戻ってきた人々は、RT に語った：——連合軍が ISIS に対して勝利宣言をして 18 か月も経った、現在のこの都市の——街の生活水準の惨状、電力と水道のひどい不足、街に散乱した瓦礫を集めようとする努力について。

「我々はここであらゆる困難と闘っている。我々は今、戻ってきたことを後悔している」と、一人の人物は毎日の状態を語った。

「我々は生ける屍のようなものだ」と、もう一人の居住者は、RT が 2 月にモスルを訪れたとき語った。「あそこには墓地が残っているが、ここでは、それは生きた者たちの墓地だ。」